

第1回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 平成31年4月24日(水) 14:30～16:30

2 会 場 鳥取市役所本庁舎 6階全員協議会室

3 出席者

(1) 委 員 佐々木委員、清水委員、下澤委員、鈴木委員、椿委員、中川委員、
西上委員(五十音順) 8名出席

(2) 鳥取市 深澤市長、安本市民生活部長、(協働推進課)谷口課長、宮崎課
長補佐、平野主事、細川主事

4 委嘱状交付

5 あいさつ

(市長)

「協働のまちづくり元年」と位置付けた平成20年から数えて昨年がちょうど10年ということで、地域組織のあり方について2地区でモデル的な取り組みを進めていただいている。1つの基準で全市的に同じようなことをやるという時代ではないと思っている。本委員会においては、協働と参画のまちづくりの推進、市民活動の推進、そして鳥取市の自治基本条例の適切な運用や内容の見直し等々について、ご審議を賜りたい。

6 委員自己紹介

7 委員長及び副委員長の選出について

委員長 中川玄洋氏

副委員長 下澤理如氏 を選出

8 議 事

(1) 説明・報告事項

①鳥取市市民自治推進委員会の位置づけと役割等について

②鳥取市の「協働のまちづくり」の取組について

(事務局)

【資料1】【資料2】説明

(委員長)

前の2年間の委員会でもかなり時間を費やしたのが地域組織のあり方検討で、公民館運営委員会とまちづくり協議会の役割が被っているのであれば地域にとってやりやすい形にできないかということも議論してきた。

これからその中をより詰めていくにはどうしたらいいかという議論をしていくことになると思っている。

(委員)

地域の負担を減らすためという名のもとに多くの人の意見を聞く機会が少なくなるのではと危惧している。組織が、それぞれの地区であって職でやっているために色々なジャンルの人の意見を吸い上げていない可能性もある。まちづくり協議会は、それぞれの地域のリーダーの養成や育成をどのようにしようとされているのか。そういう面でもう少しいろいろな人の意見を反映されるような方向に持っていかないと、単純に負担を減らすことだけで片付けられない問題が中に含まれていると思った。

(委員)

今までの経緯が分からないが、一本化は当然だと思っている。これだけ財政的に大変なのに、かなり補助金がばら撒かれている。財政的に困難であればどこかで工夫しないといけない。公民館も地域活動の拠点とあるが、全然拠点になっておらず、生涯学習の方に力を入れている。地域で助け合えるまちづくりを進めていく上で、一本化してできる限りお金を無駄なものに使わないようにしていただきたいと思っている。

(委員長)

地域状況に差が出てきたため、同じようなルールに基づいて運用しようとすると上手くできない、もしくは変えたいと思う地域と今のままがいいと思う地域のために、選択肢を増やしたというのが正しい表現かと思う。その後地域内で合意形成を図っていただき、結果としてスリム化という話になるかもしれないし、色々な人から意見を上げられるよう、現状のままそれぞれ違う人を選ぼうという話になるかもしれない。ただ現状は、同じ人が何役もやりすぎていて動けない地区もあるので、まずは余白を作ろうという意味合いがある。地域によってかなり状況が違うというところが大前提にあり、各地区で選んでいただくための選択肢をどう増やしていくかという話にこれからはなっていくのではと思う。

(2) 協議事項

①市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門）審査会委員の選出について

(事務局)

【資料3】説明

(委員長)

審査会の委員に手を挙げる方はおられるか。

立候補により、清水委員に決定。

(委員長)

参考までに、スタート型は活動3年未満の団体が対象なので、初めて補助金を受けたい、活動を少し広げたいと思っている団体が出る。その辺を意識していただければと思う。ステップアップ型については、補助金がなくても自主的に続けられるのか、もっと地域を巻き込んで連携できるのか、といった視点でご指摘をいただけるといいと思う。

(委員)

補助金があるときだけするのではなく、継続してすることが大事。私も10年活動しているが、それを意識して積み重ねることで、地域のほうからお金を出していただけるようになった。

②任期中の活動計画（案）について

(事務局)

【資料4】説明

(委員長)

参画と協働のまちづくりフォーラムについては、その時に合わせてテーマの講師や場づくりをしている。イベント的にやった時があれば、昨年のように参加者を限った形で開催したこともある。その場で何か直接議論していただくことも可能ではある。今までのところで気になる点についてご意見をいただきたい。

(委員)

説明の中で、公民館の運営について地域性があるということで、理解に苦しん

でいる。私の地区の公民館は、幅広くコミュニティの場となっていないといけ
ないが今はなっていない。それが現状だということを行政の方は認識する必要がある
と思う。これからは地域で助け合う必要があり、福祉も公民館で担うような
形を持っていかないといけない。地域性があると言われたが、なぜコミュニティ
に地域性があるのかと感じている。

(委員)

今の話は個別な事だと思う。鳥取市としては平成19年に示された、「地区公
民館の今後のあり方」の中にコミュニティづくりとしっかり出しているし、生涯
学習の場ではあるが、これからは地域コミュニティの場でもあるということ
を盛んに公民館長会やまちづくり協議会の場で説明されており、各地区はそれを
自分の地域に持って帰ってやっている。既にそういうことは言われていること
なので、個別に話し合われたらどうか。

(委員)

公民館がいろいろな人が来るような場になっていない、行きにくい場になっ
ているというところが多いのではないかということ。

(委員長)

補足をすると、結果的に今お話しいただいたことが地域性になって出始めて
しまっているということ。公民館長は市としての大きな流れの部分を踏まえた
上で、館の利用率を上げていきたいという思いを持っている方が非常に多い。一
方で、公民館設立時、もしくはその後の時代背景の中から、生涯学習の部分を取
っ掛かりにしてやられてきた地域も一定数ある。あとは、文化祭や運動会といっ
た地域の行事運営等に公民館職員が人手を割いている地区が全体として多いと
いう事実もある。今のやり方がすべて良いわけでも悪いわけでもなく、実際にバ
リエティ豊かになっているということをご理解いただくと非常にありがたい。

(委員)

協働推進課の方にそういう公民館はダメではないかと言ったら館長に任せて
いると言われた。行政としてリーダーシップが取れないのか。

(委員)

話を聞いていると、公民館の運営委員会にどれだけの人が集まって、館の運営
の仕方についての意見交換が十分なされているのかが心配。意見を無視される
ような運営だったらおかしいので、いろいろな人の意見を吸い上げる体制を館の

中で作っていかないといけない。その辺りは協働推進課に持ってこられてもちよっとしんどいのではないか。

(委員長)

この委員会はどちらかというと全体的な大枠の話を進めていくところであるし、今のお話もあるので各館の実態というのは聞いていく。市としての考え方というのは一旦全体では出ている。その上で何に優先順位を置くかは、各館の中で合意形成をされる。その中で関わられている人たちの意見の中で最低限の運営、手法が決まっているのが現状であると思う。

(委員)

公民館の職員のレベルアップを地域格差が無いように指導していただきたいというのを私はお願いしている。

(委員長)

公民館職員向けの研修は、現状ではかなりやっておられるし、職員の悩みを聞くような研修もある。たまたま私が2年間担当させていただいているが、先ほどの意見とは逆に、もっと趣味的な活動を広げたいという方もおられるので、その辺のバランスを各地区でとりながらやっておられるのが現状かと思う。

(委員)

運営委員というのはどういう形でやられているのか。

(委員)

自治会長がされている。役員の人しか出入りできないから、幅広く市民でも入れるような形に持っていけばいろんな意見が出ると思う。

(委員)

私のところは運営委員は自治会長や部長ではなく、町内の住民の代表が一人ずつ各町区から出て運営に当たられている。

(委員)

学識経験者という形で、そういう組織でない方も何人か入れて運営している。

(委員)

公民館長というのは地域の自治会長が推薦されている。だから自分の考えや

いろいろな人の意見を自治会長自身が把握されて公民館長を指名されるのではないか。

(委員)

任命するときに、自治会長も内申委員会というのを開かないといけない。それでいろいろな人の意見を聞いて、合議の上で推薦をする形になっている。

(委員)

それぞれの地域に合ったことをそれぞれの公民館や実行委員の人が工夫して取り組んでおられるのが現状だと思っているが、地域差があるので、そういった人材を育てていく何かがないといけない。それぞれの地域でどうやって人材を育てていくのかという知恵を自分も聞いて帰りたいと思っている。

(委員)

そういう部分には若い人が入りにくい。

(委員)

指定管理者制度の意向を聞くということだが、それをもし受けた場合に館長や職員の身分はどこになるのか。指定管理者の下でなるのか、市の関係がそのまま残るのか、どういう風に捉えたらいいのか。

(事務局)

一般的な指定管理者制度でいくと、身分は残らない。ただ自治体によっては指定管理者が推薦した人に館長の辞令を出し任用している事例もあると聞いたことがある。そういう制度の活用も含めて地域でさらに運営ができる仕組みがあるか研究していく必要がある。いろいろな方法があると思っているので、皆さんとも共有しながら考えていきたい。

(委員)

地区によっても財源的にもものすごく違いがあるのでその辺りで職員の身分が不安定になる方向というのは心配と感じた。

(委員)

境港はNPO法人でやっているが、ものすごく雰囲気が良い。館長も先進的な考え方をしておられた。

(委員)

まちづくりフォーラムもそうだが、公民館で活動されていることがどういう手段や方法を使えば広がっていくのかなと思っている。好きな人だけがやっているというイメージだと、一生懸命やっておられる人が日の目を見ないのではという心配をしている。

(委員)

まちづくり協議会が今の置かれている現状をベースにして、自分の地区で取り組めることを見つけられるような方向に持っていけない限り、1つの提案をしても、去年のフォーラムの意見であったように、自分の地区と全然出発点が違うから意見を聞いても参考にならない、という声が出てくる可能性の方が強いのではないか。その辺りもお互いに情報共有しながら進めたいと思う。

(事務局)

地域の皆さんの意見や疑問を活動の中に組み入れるということと、何を何のためにしているのかをその地域の皆さんが分かるようにすることが大事だと思っている。公民館の利用のしやすさの件や、どういう方が委員になった方がいいのかということもおそらくそこに通ずるところがある。そういったことも一緒になって考えていけたらと考えている。

(委員)

去年やったから来年もやろうというのでは駄目。事業を一回棚卸して仕分けをして優先順位をつける。まちづくり協議会というのは地域の連携、コーディネートをしていくのがそもそもの趣旨なので、そこに立ち返らないといけない。地区の世帯状況などの基本的なデータを出せば、必要な活動や、力を入れることも分かってくる。それが本当の意味で地域組織を見直していくことだと思う。今回モデル地区を手始めにして、社会福祉協議会等の組織が連携して、地域の課題について、ネットワークを組んで包括的に取り組んでいく。そういった組織にしないと持続可能な地域になっていかない。そういった取組の1つとして、市がやれたのは非常に意味がある。先ほど言われたように役員のなり手不足、人材不足というのはある。これも働きかけていかないといけないと思う。今までなら、PTAの役員をした人が地域デビューして、そのまま残っていくような路線があったが、それがなくなってきている。そういったものを復活させるなどして、地域のみんなが肚入りをしてやっていかないと、なかなかうまくいかないのではということを感じている。

(委員長)

いくつかの視点が出てきたかと思う。一つは人材育成や、そもそものなり手の発掘、役員の決め方は何か、この一年間で調査や議論をする。場合によってはうまくやっておられる地域のお話を聞くのもいいと思っている。もう一つは、公民館やまちづくり協議会の方々が頑張っておられる活動がなかなか住民に伝わっておらず、ある意味もったいない部分もある。そこをどう広げていくか。また、一本化やスリム化、指定管理など激しい単語が飛び交うと、地域に勘違いされて受け取られる可能性もある。その辺の認識をどう深めていただくのか、という視点もあろうかと思う。あとは、活性化センターや社会福祉協議会などの外部組織と地域が連携できるようなものがあるのではないかと、逆に外部組織として地域に頼みたいことがあれば、今後お話しいただき、接点を出してもらえそうな流れになるとよいかと思う。

(委員)

もう一つお願いしたいのは、若い人が主体的に参加できる仕組み作り。若い人でも違和感なく入れるような仕組み作りをして人材を育成していかないといけない。一つの起爆剤を作っていないと、と思う。地域愛を子供のころから養っていないといけない。誰でも気兼ねなく入っていける、オープンな仕組み作りが大事だと思う。

(委員長)

地域愛的なことは小、中学校では地域学習のようなものが増えている。高校生に卒業後に地元から出たいかというアンケートを取ると、残りたいという率が高まってきている。

(委員)

この間中学校の先生と会ったが、今の子どもは利己主義の子が多いと聞いた。

(委員長)

社会に余白や余裕が無いために、結果として子どもたちが利己を選ばざるを得ない選択をしている傾向がある。そこはもっと世の中全体として余白を作るべきところだと思っている。若い方の参加に関しては、一つは世代とか職業によっては夜の会合が出にくいことがある。あとは会合での発言がしにくいということもある。ある地域では若い人達をまず集めて意見交換を行い、意見を言うのに慣れてからいろんなどころに入って話をしていくといったこともしている。先ほどの人材育成や発掘の観点に若い世代をどう入れていくかというテーマも

入れて、情報収集もしながら皆さんと議論できればよいと思う。

(委員)

若い方の参画は当然必要だが、高齢の方の協力も必要だと思う。地域のコミュニティを作るにあたって、老人クラブは不可欠なものだと思うが、老人クラブの会員数やクラブ数は年々減少傾向にある。理由を聞くと、世話をずっと同じ方がされていて、役員の交代ができないという現状がある。会員も一時は1万5千人くらいおられたが、今は1万1千とか2千くらいまで下がっている。若い方だけでなく、高齢の方の参画も今の形を維持するためには必要と感じる。

(委員)

加入者もものすごく減っている。

(委員)

楽しくないからだと思う。地域貢献する楽しみや仲間と語らう楽しみなどあるが、色々なことをしてくれと依頼が来るから、運営がしにくくなりやめるという方もあると聞いた。その代わり補助金をもらわずに集まって話し合えること、楽しい事はする、というようなところもある。

(委員)

人口が高齢化して、公民館に関わらない事務局を公民館の職員がたくさん持ちすぎている可能性がある。それらの内容を聞いて、仕分けの手伝いをしてあげてほしい。

(事務局)

去年意見交換をさせていただく中で、佐治地区では、それぞれの団体の活動と他の団体との関係性について表にして整理されておられた。重なっているところはやめる、やるべきところはもっと充実させる、といったことを見える化をして地域の中で話をしていただけたらと思う。

(委員)

公民館職員の負担が今以上に増えることはちょっとしんどいと思う。

(委員長)

また何か気づかれた点があれば事務局の方にお話いただきたい。